

TWO REGIONAL RESIDENCE CASE STUDIES

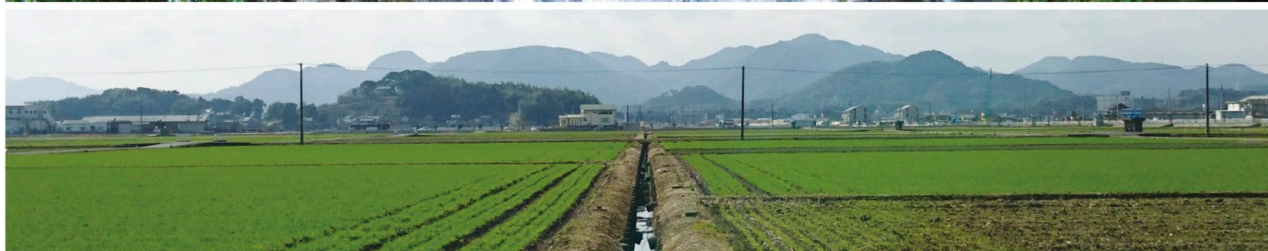
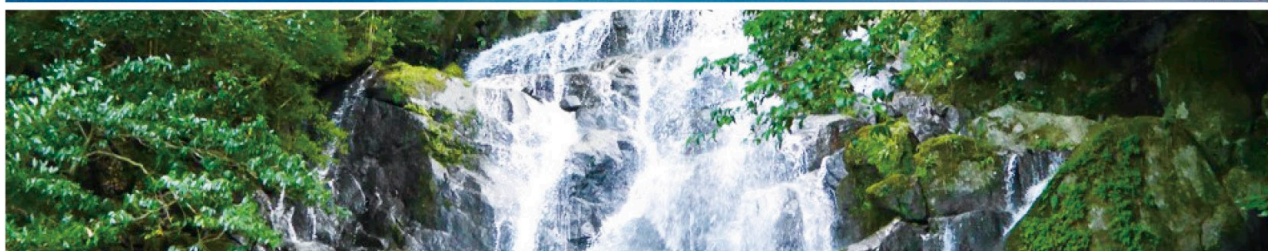


*City*

# 二地域居住

推進の取組事例集

*Local*



平成30年3月

国土交通省 国土政策局 地方振興課

# 二地域居住とは・・・

二地域居住とは、都市部と地方部に2つの拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つです。

## 二地域居住のイメージ

例えば、平日は都市部で暮らし、仕事をして、週末などの休みを活用して趣味などのゆとりある生活を過ごすことが考えられます。



## 二地域居住のメリット

二地域居住は「実践する側」と「受け入れる側」双方にとって以下のようなメリットがあるライフスタイルです。

Merit /

### 実践する側

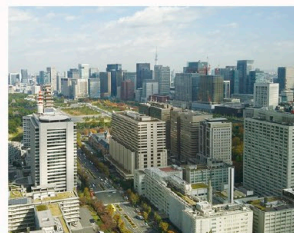
#### 実践者

- ・ゆとりある生活 (スローライフ)
- ・心、体、健康等の癒やし



#### 企業

- ・働き方改革
- ・社会貢献活動
- ・福利厚生
- ・新規ビジネスの展開



### 受け入れ側

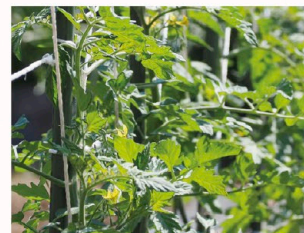
#### 受け入れ住民

- ・人材不足の解消
- ・コミュニティの活性化



#### 地方自治体

- ・遊休農地の解消
- ・地域に仕事が生まれる
- ・経済効果 (消費等)



# 二地域居住

## 推進の取組事例集

### Contents

国土交通省では、2016年度と2017年度に、複数の生活拠点に居住・就労する二地域居住等の促進に向けて、官民連携の先駆的な取組に対し、有識者からの助言やプロジェクト立ち上げ費用の支給等により支援する「二地域居住等推進モニター調査」を実施しました。

「二地域居住等推進モニター調査」を実施した6つの事例についてご紹介します。

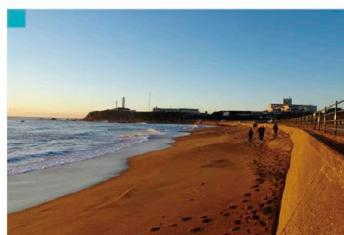
#### 2016年度 二地域居住等推進モニター調査

03

##### 事例1 千葉県 銚子市

企業と連携した都市住民の実態を分析する取組

《銚子市/NPO法人 ちょうしがよくなるくらぶ/株式会社ミストソリューション》



04

##### 事例2 長野県 富士見町

現地体験コンテンツによる交流促進の取組

《Route Design 合同会社(富士見町)》



05

##### 事例3 鹿児島県薩摩川内市 甕島

離島における二地域居住の可能性を検証する取組

《東シナ海の小さな島ブランド株式会社(薩摩川内市)》



06

##### 事例4 千葉県 南房総市

古民家断熱の普及による田舎暮らし促進の取組

《NPO法人 南房総リパブリック(南房総市)》



07

##### 事例5 兵庫県姫路市 家島

「小商い」による島の活性化に向けた取組

《いえしまコンシェルジュ合同会社(姫路市)》



08

##### 事例6 福岡県 宗像市

都市部と地方部を結ぶ新たな取組

《宗像市/日本航空株式会社(福岡地区販売部)》



# 銚子市 Choshi

## 企業と連携した

## 都市住民の実態を分析する取組



千葉県  
銚子市

### 取組団体

銚子市/NPO法人ちょうしがよくなるくらぶ/株式会社ミストソリューション



銚子市では、東京から約100km、車や電車で約2時間と都心からのアクセスの良さを活かし、都心部からの二地域居住者等と呼び込むために、「お試し住宅」の整備などを実施しています。

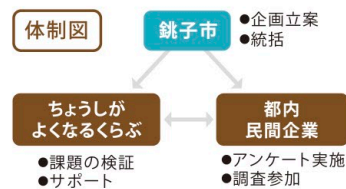
### 取組概要

都心から2時間程度でアクセスできる立地条件を活かし、二地域居住等を推進するため、都市部の企業の社員に空き家を活用したお試し住宅を体験してもらう取組を実施しました。

また、銚子市の地域資源が二地域居住等を希望する方にとって魅力的であるか、生活体験等を通じて検証しました。

### 二地域居住等の試験的实施

連携企業の社員に市のお試し住宅を利用した、二地域居住等を体験してもらいました。体験期間中に、地域資源を活用した健康モニターツアーに参加してもらい、二地域居住等の推進に向けた地域資源の活用の方向性について検討しました。



市が整備したお試し住宅

### 取組効果

- ・連携企業のアンケート調査によれば、地方に魅力を感じると回答したのは約66%であったものの、地方に住みたいと回答したのは約7%であり、二地域居住について真剣に考えたことがあるなど前向きに回答したのは約8%であった。二地域居住等の推進には、助成制度や周り(会社、家族など)の理解が不可欠であるとの意見が多かったため、二地域居住をするにあたり費用負担や仕事に対する不安があるのではないかと考えられます。
- ・二地域居住等を体験した参加者へのアンケート調査などによれば、銚子市が有する食や観光資源への評価は高く、心身及び作業能率が向上したとの意見があり、二地域居住の促進に向けて、地域資源の活用が有効であると考えられます。

# 富士見町 Fujimi

## 現地体験コンテンツによる 交流促進の取組



長野県  
富士見町

### 取組団体

#### Route Design 合同会社(富士見町)

長野県を中心に地域の取組をデザインするプロジェクト・デザインチームであり、地域課題や企業課題などを拾い上げ、課題解決の道標となるような取組を様々な観点から企画・デザインしています。



### 取組概要

二地域居住等の促進に向け、富士見町の活性化や来訪者の増加に繋がるサービスの企画づくりを実施しました。企画づくりは、都市住民と地方を繋ぐウェブマッチングサービスを実施予定の企業の社員が、実際に富士見町で数日間過ごし、自身の仕事をしながらコンテンツづくりを行いました。

#### 「行きつけの田舎(仮)」マッチングサービス

都市住民が定期的に参加できる「高原野菜の収穫体験」などのコンテンツを紹介しながら、参加者に「行きつけの田舎」と呼べる場所を作ってもらい、移住や二地域居住等を促進するためのコンテンツを立案し、マッチングサービスを構築しました。



ゲストハウスの施設内デザイン

#### ゲストハウス立ち上げプロジェクト

富士見町には、企業の滞在拠点となる施設や宿泊施設が不足しているため、元料亭を改装して立ち上げるゲストハウスのデザイン案についてワークショップ等を行い検討しました。

### 取組効果

- ・「行きつけの田舎(仮)」におけるコンテンツは、富士見町の人と直接会える、顔の見える体験を中心に発掘したため、これにより参加者と地元の方々との直接的な繋がりが増え、将来的に二地域居住等への展開に繋がることが期待されます。
- ・IT企業やデザイン企業と地域住民が連携し、一緒に田舎体験コンテンツの具体化などに取り組む中で、現地関係者の情報は非常に参考になることがわかったため、企業と地域住民の連携する取り組みは、二地域居住等の促進を図る上で大きなポテンシャルになると考えられます。
- ・田舎体験コンテンツを充実させるために、コンテンツを企画する人や協力者を地元で増やすことが重要であると考えられます。

甕島  
Koshikishima

離島における二地域居住の

可能性を検証する取組



取組団体

東シナ海の小さな島ブランド株式会社(薩摩川内市)

甕島において、山下商店(お土産の販売や、豆腐や甕島産の焼酎やハーブティー等カフェメニューの提供)の経営をはじめ、甕島の観光ガイド、島宿「island Hostel 藤や」・旧フェリーターミナルをリノベーションし、ベーカリー・お土産品の販売も兼ねたカフェレストラン「コシキテラス」の運営等の活動をしています。

island company.

取組概要

島の外の人を巻き込みながらリモートワークやノマドワークなど甕島での新たな働き方(離島ワーク)を創出することを目指し、甕島を紹介するサイトの製作及び離島ワークを促進するイベントを実施しました。甕島での二地域居住等の実現に向けては、島で「仕事」に関わる必要があると考え、まとまった期間の滞在やリモートワークが可能な方に滞在してもらい仕事と生活を体験してもらいました。



製作したサイト

ウェブサイト「しまとりえ」の製作

甕島にまつわる仕事に携わり、甕島で仕事をしながら他の仕事をリモートワークするようなライフスタイルを提供するため、甕島の仕事情報の記事をメインに掲載しています。

離島ワークを促進するイベントの実施

離島ワーク経験のある社会人をゲストに招き、離島でのリモートワークの魅力を伝えたり、疑問に答えたりするトークイベントやプロジェクト紹介イベントを実施しました。



イベントの様子

取組効果

- ・気象条件等による交通手段(船便)の不安定さが障害となることがわかり、1ヶ月等の長期滞在型による二地域居住等の検討の必要性が改めて認識されました。
- ・アンケート調査から本業を持ちながら離島のプロジェクトに参加を希望する方が多く、週末3日(金曜日から日曜日)あれば活動可能との声もあり、離島であっても二地域居住等へのポテンシャルが高いと考えられます。
- ・長期滞在や継続的に島を訪れる人は地域との関わりが必要となってくるので、都市部から来た人と地域の人との関係性を深めるコーディネーターが重要であると考えられます。

## 南房総市 Minamiboso

## 古民家断熱の普及による

## 田舎暮らし促進の取組



千葉県  
南房総市

### 取組団体

#### NPO法人 南房総リパブリック(南房総市)

人間を含めた生きものの営みがひとつながりで循環している里山環境の豊かさを未来に残すため、南房総の里山と都市に暮らす人々をつなげることを目標としています。

NPO法人  
南房総リパブリック  
mb-republic.com/

### 取組概要

二地域居住者が求める古民家は無断熱のものが多く、冬は外気と同程度となるため都市居住経験者を感覚的に遠ざける遠因となっています。その遠因を解消するため、「古民家の風情」はそのまま残しつつ、お金をかけず、暖かい居住環境を手に入れるDIYエコリノベの取組を実施しました。数日間の南房総市での二地域居住等の体験を通じて、地域を深く知るきっかけづくりとして開催しました。

#### 南房総DIYエコリノベワークショップ

省エネ、断熱の基礎知識から、なぜ断熱が必要かを知る座学と、実際に手を動かし断熱改修を実践するワークショップを『座学1日+ワークショップ2日』の3日間(2週に渡り週末に開催)で体験し、未来のライフスタイルをみんなで考え作るDIYエコリノベ(参加者20名)を実施しました。



DIYエコリノベの様子

### 取組効果

- ・南房総市に足を運んでDIYを中心としたワークショップは、人や地域との繋がりを持った“ともに作る”という一種のコミュニティを形成する役割を担うことが確認されました。
- ・今回のワークショップは、地域の仲間に伝授できる「指導者育成編」のプログラム(DIYの基礎的技術と居住環境を向上させる断熱改修技術の指導)であり、参加者による自発的な取組の拡散が期待されます。

# 家島 Ieshima

## 「小商い」による島の 活性化に向けた取組



拡大図

兵庫県  
姫路市  
家島

### 取組団体



#### いえしまコンシェルジュ合同会社(姫路市)

家島の魅力を伝えるためにガイド事業や特産品の製造、島外への魚の定期販売、島内の魚や加工品の卸売、男鹿島の空き家改修(男鹿島うみのいえ)等の取組を実施しています。

### 取組概要

家島での二地域居住等の促進に向けて宿泊・交通費などの金銭的負担を軽減するため、都市部の方が趣味や特技を活かした商売により収益を得られる、空き店舗を活用した「小商い」を実施しました。

#### 小商い実践スペース「チャレンジショップ」の開設

空き店舗を「チャレンジショップ」として整備を行い、島外参加者(家島に複数回訪れた人、家島出身者等)を募集して、島民の求める家島にないものを中心に、参加者が個別に用意した商品(レトルトカレー・羊羹・みかん・オリジナルTシャツ・ドリップコーヒー等)を販売しました。



チャレンジショップの様子

### 取組効果

- ・「小商い」を通じて、収益だけでなく、地域との繋がりを持つきっかけとなると認識することができました。
- ・今後は、「島にない体験やサービス」の提供を気軽に実施することができる「小商い」の場の整備により、都市部の人と家島住民の交流に繋がると考えられます。このような交流が増えることで、新たに小商いに参加する人が増え、島の新たな賑わいの創出に繋がると考えられます。
- ・都市部の人と家島住民との関係性が深まることで、「週末起業の促進」や観光客以外の「交流人口の拡大」が期待できます。



# 宗像市 Munakata

## 都市部と地方部を

## 結ぶ新たな取組



福岡県  
宗像市

### 取組団体

宗像市／日本航空株式会社（福岡地区販売部）



宗像市は福岡市と北九州市から約30km圏内に位置し、交通アクセスに恵まれており、家賃補助制度や古家購入建て替え補助制度等の移住・定住に向けた取組を実施しています。また、平成29年4月に宗像市と日本航空において、それぞれの持つ物的・人的・知的資源を有効活用し、地域全体の活性化を図ることを目的に「包括連携協定」を締結しています。

### 取組概要

宗像市では、宗像市への移住等に関心がある東京都市圏在住者をターゲットとして、航空機を利用した“遠方”二地域居住を体験するモニターツアーを実施しました。世界遺産に登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群など歴史的遺産にふれるとともに、二地域居住実践者や東京からの移住者等を講師とした交流プログラムを組み込むことで、宗像市の「自然・食」、「住まい」、「働き方」を知ってもらい、二地域居住等をより具体的にイメージできるような内容としました。

#### 二地域居住等推進モニターツアーの実施

東京都市圏から900km離れた宗像市に、実際に航空機で移動し週末二日間滞在する「世界遺産のまちをめぐる宗像市モニターツアー」（参加者15名）を実施しました。参加者は宗像について「人が優しい、自然豊か」、「都市部へのアクセスが良い」、「魚、農作物など、ごはんが美味しい」等の印象を持たれました。



モニターツアーの様子

### 取組効果

- ・都市と地方を結ぶキーパーソンとして、地元出身者や移住実践者のコーディネーターの存在が重要であるということが改めて認識されました。
- ・アンケート結果から移動費の負担低減の課題が見えたため、宗像市と日本航空の協定を活用した移動費低減策の実施が“遠方”二地域居住のきっかけになることが期待されます。
- ・二地域居住等を促進していくためには、交通費負担への対応だけでなく、地元の人と良好な関係がつけられる場の設定が重要であると考えられます。

事例

# MAP

(各団体の詳細な情報につきましては  
下記ウェブサイトをご覧ください。)



## Nagano

富士見町

いきつけの田舎 touch

<https://www.so-net.ne.jp/touch/>

Route Design 合同会社

<https://routedesign.net/>

## Fukuoka

宗像市

宗像市 (宗像に住もうよ)

<http://munakata-live.com/>

## Chiba

銚子市

銚子市 移住定住促進

<https://www.city.choshi.chiba.jp/sisei/teiju/>

NPO法人

ちょうしがよくなるくらぶ

<http://cholove.jp/>



Fukuoka

Hyogo

Nagano

Chiba

Kagoshima

## Chiba

南房総市

NPO法人南房総リパブリック

<https://mb-republic.com/>

## Kagoshima

薩摩川内市甑島

しまとりえ

<https://shimotorie.jp/>

東シナ海の小さな島ブランド(株)

<http://island-ecs.jp/>

## Hyogo

姫路市家島

いえしまコンシェルジュ

<http://ieshimacon.com/>



# イベント参加者に対する アンケート結果

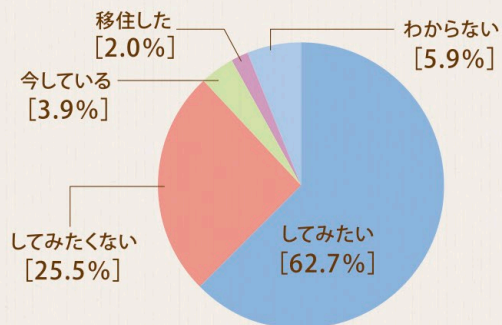
2016・2017年度「二地域居住等推進モニター調査」に参加して頂いた方を対象にアンケート調査を実施しました。アンケート結果についてご紹介します。

【回答数51名(男性27名 53%・女性24名 47%) 平均年齢約35歳】

## 将来、二地域居住等をしてみたいと思いますか？

モニター調査に参加した約6割の方が二地域居住をしてみたいと回答しています。参加した約1割の方が既に二地域居住または移住を行っていると回答しています。

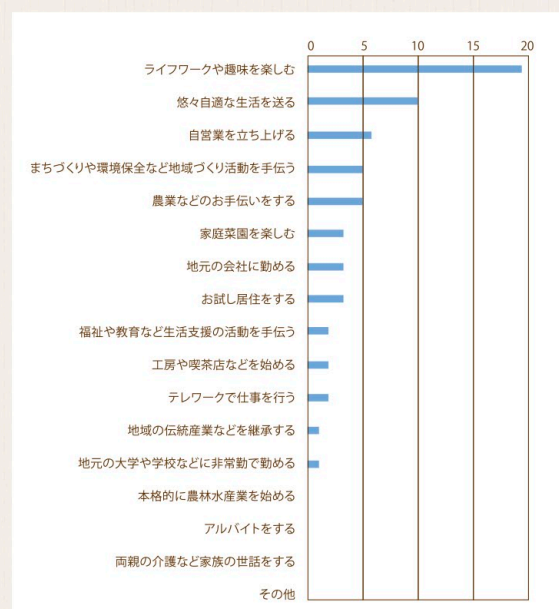
回答	回答数	割合
してみたい	32	62.7%
してみたくない	13	25.5%
今している	2	3.9%
移住した	1	2.0%
わからない	3	5.9%
合計	51	100.0%



## 二地域居住等をする地域では、どのような活動をしたいですか？(複数回答可)

二地域居住先での活動としては、「ライフワークや趣味を楽しむ」との回答がもっとも多い結果となりました。他に「悠々自適な生活を送る」「自営業を立ち上げる」「まちづくりや環境保全など地域づくり活動を手伝う」「農業などのお手伝いをする」と回答した方が多くいました。

回答	回答数	割合
ライフワークや趣味を楽しむ	19	30.7%
悠々自適な生活を送る	10	16.2%
自営業を立ち上げる	6	9.7%
まちづくりや環境保全など地域づくり活動を手伝う	5	8.1%
農業などのお手伝いをする	5	8.1%
家庭菜園を楽しむ	3	4.8%
地元の会社に勤める	3	4.8%
お試し居住をする	3	4.8%
福祉や教育など生活支援の活動を手伝う	2	3.2%
工房や喫茶店などを始める	2	3.2%
テレワークで仕事を行う	2	3.2%
地域の伝統産業などを継承する	1	1.6%
地元の大学や学校などに非常勤で勤める	1	1.6%
本格的に農林水産業を始める	0	0.0%
アルバイトをする	0	0.0%
両親の介護など家族の世話をする	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	62	100.0%



TWO REGIONAL RESIDENCE  
CASE STUDIES

# 二地域居住

推進の取組事例集

国土交通省

※2016年度、2017年度に実施した「二地域居住等の推進に向けた先進事例構築推進調査」により作成したものです。